



「ペガサス座」のはなし

秋の宵、四角形に並んだ4つの星が南の空高くに輝きます。この四角形は「秋の四辺形」と呼ばれ、「ペガサス座」の目印になっています。

ペガサスとは、翼の生えた白い馬で、ギリシャ神話では勇者ペルセウスが妖怪メドゥーサの首をはねたとき、その血が降りかかった岩から生まれた天馬であるとされています。ペガサスともいいますが、一般的に星座名はラテン語で読むので、「ペガサス」になります。この名をとって、秋の四辺形を「ペガサスの四辺形」ともいいます。この部分は馬の胴体にあたり、馬全体の姿は逆さに見えます。



四辺形の星の内、左上の星「アルフェラツ」はペガサス座のお腹と、お隣の星座であるアンドロメダ座の頭が重なる位置にあるため、元々この2星座で共有されていましたが、1928年国際天文学連合第3回総会にて星座の境界線を決める際、アンドロメダ座の所属となりました。

不思議なことに、昔の文献ではペガサス座に翼のないものも見かけます。実際、天馬の頭や鼻、脚にあたる星はあるものの、翼の部分にはそれらしい星は見あたらず、翼を意味する名前のついた星もありません。

また、地球から見て四辺形の方角には「ペガサス座51番星」という太陽に似た恒星が位置し、その周りを「ディミディウム」という惑星が回っています。地球からの距離は、約50光年(光の速さで約50年かかる距離)。この惑星は、太陽以外の恒星の周りを回る惑星として初めて発見された、太陽系外惑星です。また、恒星に非常に近い距離を公転し、高温の表面を持つ巨大惑星、「ホット・ジュピター」第一号でもあります。

秋の夜長、翼の生えた興味深いペガサス座を眺め、夜空に想いを馳せてみましょう。

2025年9月12日記 (解説員：朝比奈 麗加)